

第 5 回報告書

2024 年 6 月

伊藤絵美



(左:丘の上から見た大学のキャンパス、右:バークレー市のバラ園)

1. はじめに

カリフォルニア大学バークレー校で Chemistry の PhD をしている伊藤絵美です。2 年目に入って qualifying exam も終わり、自分の研究の方向性が少しは明確になってきたかと思えます。この半年のできごとを以下に振り返っていきます。

2. 生活

2.1. 研究以外の活動

米国大学院学生会の代表に就任し、2023 年冬の海外大学院留学説明会の運営を行いました。現在も 2024 年夏の海外大学院留学説明会に向けて準備を進めています。今後も米国大学院学生会のメンバーと協力して積極的に PhD 留学の情報を広めていきたいと思えます。また、年末に帰国した際には財団の交流会で奨学金の先輩、同期、後輩に会うことができました。後輩が増えてきたことを実感し、PhD3 年目に向けて気を引き締めて精進していかなければならないと思えました。

2.2. ドライブ



車の運転にも慣れてきて高速にものれるようになってきました。春学期中は土日も研究室に行くような生活だったのですが、学期が終わってから色々ドライブをすることができました。大きな水族館があることで知られるモンレーに行ったり、バークレーの大学が持っている科学館に行ったりしました。水族館と科学館の両方に行ってみて、やはりアメリカの知育展示のレベルは高いなと思いました。PhD 中にアメリカ各地の科学館巡りを少しずつ進めていきたいです。

3. 研究

先学期に Qualifying exam が終わり、今学期は自分の研究にかなり時間を割けると思っていたのですが、卒業した先輩の論文に必要なデータを取ることになり、自分の研究と先輩のテーマの間でタイムマネジメントに苦心しました。先輩が開発した合成法を自力で習得して再現するのが難しく、当初想定していた以上に時間がかかってしまいました。締切もあったので土日や夜中も研究室に通い詰めるような生活を送らざるを得ない時期もありました。アメリカで PhD を始めてから忙しい時期は何度もありましたが、履修している授業の課題や Qualifying exam の準備等、研究以外の勉学に追いつめられることばかりだったので、研究で追い込みをしたのは PhD 入学後初だったように思います。大変ではありましたが、想定外に追い込んで合成をした結果、合成のスキルは成長したように思います。夏以降は成長した合成のスキルを自分のテーマに活かして成果を出せるようにしたいです。

また、5月には所属研究室で初めて研究室全体への進捗報告プレゼンを行いました。私の所属する研究室は50人ほどの大きなグループなので、研究室全体への進捗報告の機会は年に1回しかまわってきません。機会が少ない分、研究の背景や動機なども含め、かなり作りこんで1時間以上の長いプレゼンを行うことになっています。プレゼンの作り方について先輩から色々学んだり、自分の研究をまとめて振り返ったりするいい機会でした。私がこれまでの人生で行ったことのある中で1番長いプレゼンだったと思います。卒業まで進捗報告がまわってくるのはあと数回しかないですが、毎年発表をレベルアップしていけるようにしたいです。

4. 最後に

船井情報科学振興財団のご支援のおかげで、実りある PhD 生活を送ることができています。この夏には PhD の折り返しである 3 年生になるので、より一層研究に邁進していきたいと思えます。